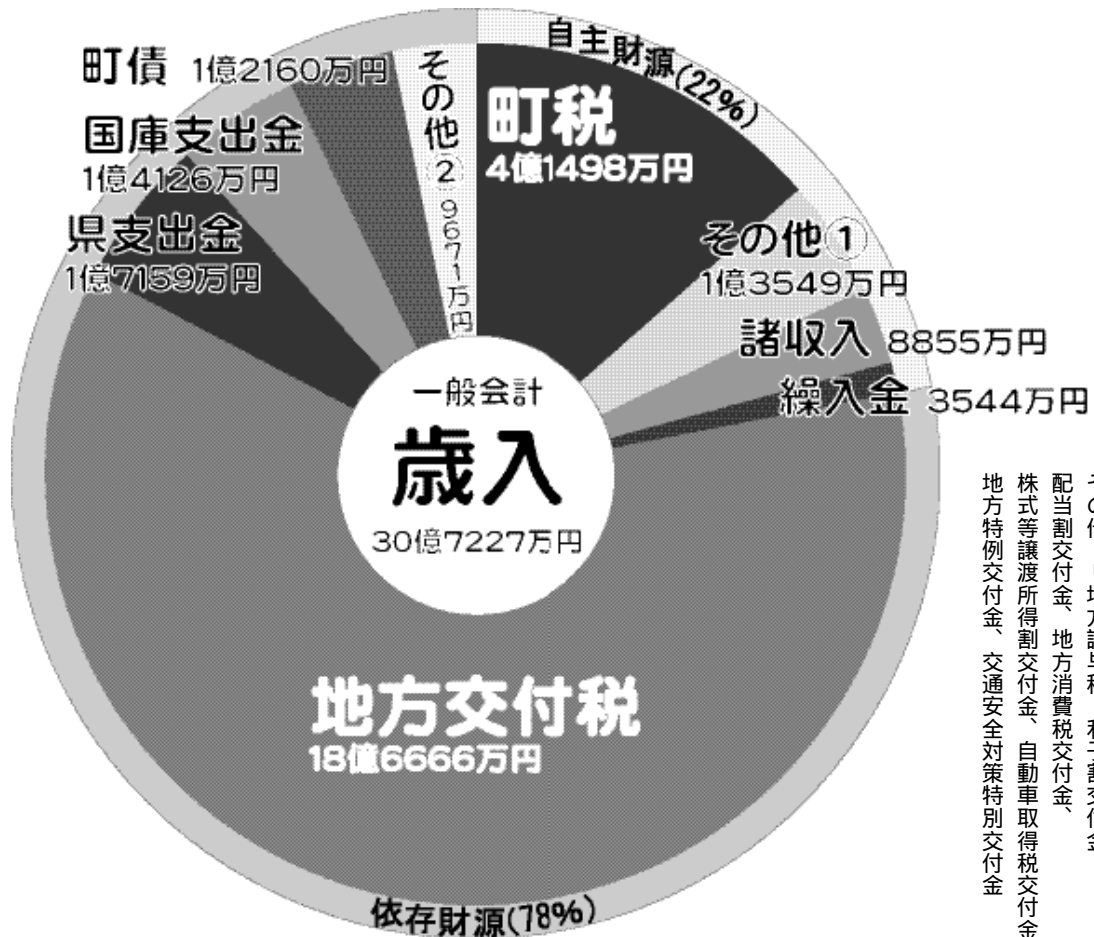


# 08

9月に開かれた第6回町議会定例会で、平成20年度のまちの歳入・歳出の決算が認定され、一般会計では、約1億824万円の黒字となりました。まちがどのようにお金を使ったのか概況をお知らせします。



その他 〓 分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄付金、繰越金  
 その他 〓 地方譲与税、利子割交付金  
 配当割交付金、地方消費税交付金、株式等譲渡所得割交付金、自動車取得税交付金、地方特例交付金、交通安全対策特別交付金

## 一般会計 歳入

平成20年度一般会計の歳入(まちに入ったお金)は、合計約30億7227万円。昨年度と比べ約21%減っています。(19年度は県の貸付金を借り換えたため、大幅に決算額が膨らんでいました)

歳入全体に占める割合で見ると、国から交付される地方交付税が最も大きく、総額約18億6666万円。歳入全体のおよそ61%を占めています。

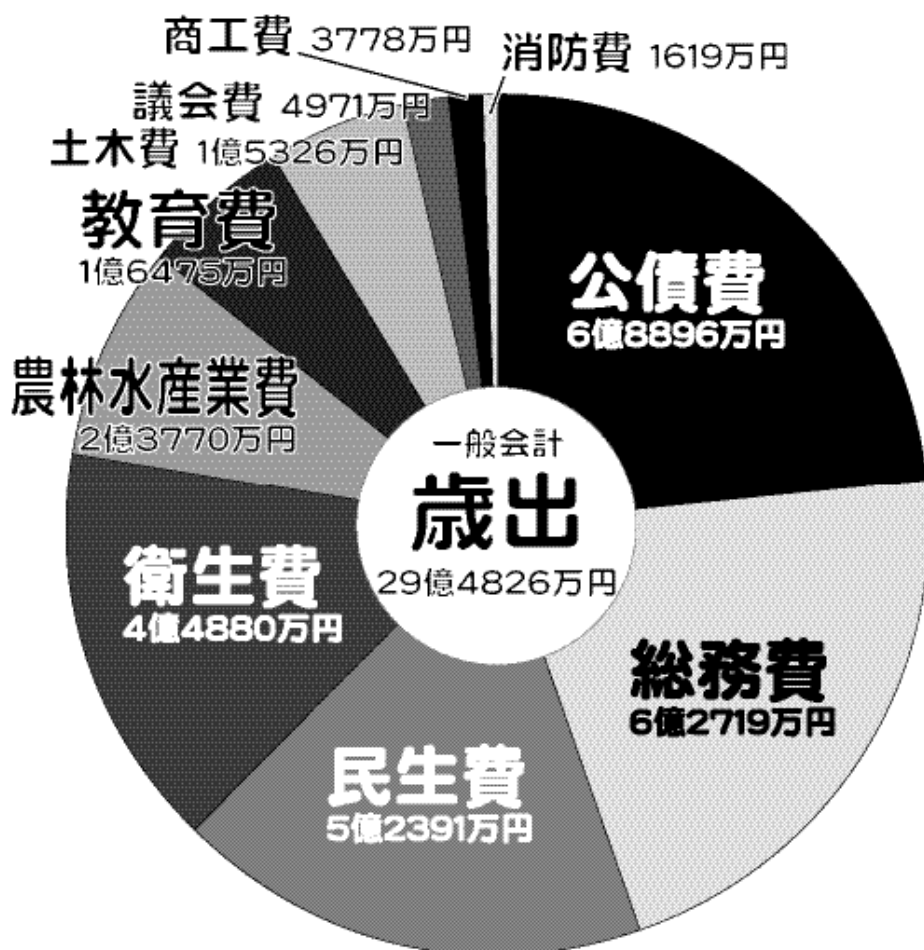
次に占める割合が大きいのは町税の約4億1498万円、まちの皆さんからの町民税や固定資産税などがこれに当たります。

さらに、県支出金の約1億7159万円、国庫支出金約1億4126万円などが続きます。

これら歳入を財源の性質から見ると、町税や保育料、住宅使用料など、まちが自主的に収入にできる自主財源(約6億7445万円)が全体の約22%であるのに対し、国や県からの収入である依存財源(約23億9782万円)は、全体の約78%の金額を占めていることが分かります。

# 平成 20 年度一般会計決算

# まちの家計簿 20



## 一般会計 歳出

平成20年度一般会計の歳出(まちが支払ったお金)は、合計約29億4826万円。昨年度と比べ約22%の減となりました。(19年度は県の貸付金を借り換えたため、大幅に決算額が膨らんでいました)

歳出全体に占める割合の大きな順に見ると、まちが借金で事業を行った町債の返済金である公債費が一番大きく、約6億8896万円。全体の約23%を占めており、まちの借金が財政を圧迫していることが分かります。

続いて、庁舎管理や県西部広域行政管理組合負担金、過疎バス対策費、定額給付金事業、財政調整基金積立金などの全体的な管理事務に使った総務費が約6億2719万円、福祉事業や保育所運営、介護保険・後期高齢者医療保険特別会計繰出金などの民生費が約5億2391万円となりました。

次いで、保健事業や簡易水道事業特別会計への繰出金、ごみ処理などを行う三町衛生施設管理組合への負担金、日野病院への負担金などに使った衛生費が約4億4880万円の順となりました。また、農林業振興に使った農林水産業費が約2億3770万円、小・中学校の運営費などの教育費が約1億6475万円となりました。